

# 長蓮寺報

NO.1 (平成8. 12. 1)

## ご挨拶



早いもので富山に来てから1ヶ年が経とうとしており、ようやく慣れてきたような気がします。先の入寺式(4月7日)や落慶式(10月10日)では檀信徒方々のご支援ご協力によりお陰様で恙無く、且つ盛大に挙行することが出来ました。有り難う御座いました。感謝申し上げます。

東京から富山への赴任に当たり東京の近親の方から富山の方々は熱心でお経も達者だからお前みたいな未熟者には務まらないと言われ、内心ビクビクしながら此方に赴任してきたわけですが、檀家の皆様には本当に様々なことを親切に教えていただきました。感謝の念に堪えません。皆様の熱心さにお応えできるよう、また長蓮寺住職として恥じぬよう、大過なくその任を果たす所存で御座います。これまで同様、お力添えのほど宜しくお願い申し上げます。

日蓮聖人のお言葉に

「只女房と酒打呑みて南無妙法蓮華經と唱えさせ給へ苦をば苦と悟り、樂をば樂とひらき苦樂共に思い合わせて南無妙法蓮華經とうち唱え居させ給へ此岩に自受法樂にあらずや……」と教えてくださっています。

この文は四条金吾という熱心な法華信者の手紙に返事をお書きになったもので「妻と酒を飲んでる時もいつも南無妙法蓮華經の心を忘れてはいけないよ。苦しみにおそわれたら苦しみとはこういうものかと学び、また楽しみがおとずれたら決して有頂天にならず、いつもお題目を唱えなさいそうすれば如何なる苦難も乗り越えられ素晴らしい人生になることだろう。」

と不断の信ずる心でお題目を唱えることが大切だとお示し下さっています。私もこの心を忘れずに修行して参りたいと思いますのでどうか宜しくお願い致します。

最後になりましたが各檀信徒の皆様にとって来年平成9年が幸多き良い年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

合掌

### 平成9年年忌表

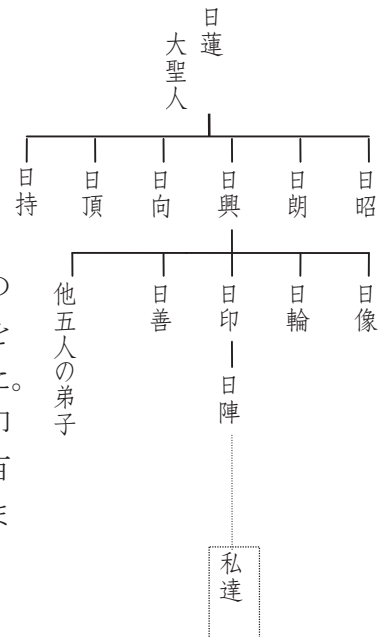
一周忌	平成8年	十七回忌	昭和56年	三十七回忌	昭和36年
三回忌	平成7年	二十三回忌	昭和50年	四十三回忌	昭和30年
七回忌	平成3年	二十七回忌	昭和46年	四十七回忌	昭和26年
十三回忌	昭和60年	三十三回忌	昭和40年	五十回忌	昭和23年

## 長蓮寺の基礎知識Q & A

Q：長蓮寺の宗派を教えてください

私達の宗派は法華宗陣門流といいます。本山は新潟県三条市にある長久山本成寺です。

右の図の通り、日朗聖人（日蓮聖人の弟子、六老僧の一人）に越後方面の布教を任された日印聖人は本成寺をお建てになりその弟子日陣聖人が宗門を確立されました。その陣の字をいただいて陣門流と言います。来年は日印聖人が本成寺を開創され七百年に当たります。その七百年を記念法要が、御本山で来年5月22日から26日まで行われますので是非この機会に御参詣下さい



Q：日蓮聖人御木像の御綿をかけるのは？



小松原の法難一日蓮聖人がお受けになった四大法難の一つ、日蓮聖人をお招きしてお話をお聞きしたいと願った千葉の地頭工藤義隆の要請に応えられて工藤家の屋敷に向かう途中、日頃から良く思っていなかった東條景信（熱心な念仏信者）の軍勢百人余りに待ち伏せされ襲われ、お連れの弟子や迎えに出た工藤義隆までもが討ち死にし日蓮聖人も額に太刀を受けられました。

この傷が冬になると痛まれ、綿で保護されていたことから私達の御仏壇におまつりしている聖人の御木像にも十月の御会式の時から春のお彼岸まで綿帽子をおかぶせいたします。



## なるほど仏教語

数年前、インドに旅行に行ったときインドの言葉がミミズの這ったような字であまりにも解らなかったので（インドではアルファベットではなく、ナーガリー文字を使って表現する。）デリー（インドの首都）の友人より日・インド語（ヒンディー語）辞典を借りてぺらぺらめくってみるとどっかで聞いたことのあるような言葉が目に入ってきた。

あがいても抜け出せないような状態のたとえをよく「奈落の底に落ちたような」と表現し、「奈落」とは仏教語で地獄のことを意味するがインド語でもナラカは地獄という意味であり、インドでも「ならく」と言うインド人にも通用するのだ。仏教がインドで生まれ、中国、日本と伝わり時代は変わっても、言葉は同じであるということに仏教の大きさを改めて感動したことがありました。それ以来、少しずつ勉強したことを皆さんにもお伝えしようと思います。

### 億劫（おっくう）

お経に行くによく「もう年だから何をするにしても億劫になって」と言われる方がいらっしゃいますが「おっくう」という言葉も実は仏教の言葉。少しお経をお読みになられる方ならお解りと思いますが法華經の二十一番目の神力品の最初の方に「無量百千万億載阿僧祇劫において…」とありますがこの「億劫」なのです。

仏教的に言いますと「とっても気の遠くなるような長い時間」という意味なのですが、そこから長い時間のかかる何かをやろうとするとイヤになってくるのでそれを億劫と言うようになり、今では手間暇の時間のかかる面倒くさいことの代名詞となっています。

# トビツグ

去る十一月七日、第一回目の七日会を開きました。快き晴天にも恵まれ、多くの方々に参加いただき和やかな雰囲気の中で二時間あまり楽しい時を過ごしました。二時よりお経・太鼓の練習 はじめは自信がないとおっしゃていましたが、次第に声も大きく、太鼓の音も一つになりました。簡単な住職の法話の後、お茶を飲みながら色々な仏教に関することや世間話に話がはずみ時の経つのを忘れてしまいました。毎月こういった機会を持ち住職はもとより、檀家さん同志の交流も深めて参りたいと思いますので是非時間の都合のよろしい方はご参加下さい。



## お知らせ

1月7日午前11時より七日会で新年会を開きます。ご希望の方は別紙の申込用紙にご記入の上お申し込み下さい。カラオケなども用意しております、

皆さんの御参加をお待ちしております。

## あとがき

- 当長蓮寺の布教紙として年末に簡単なものをお送り致しました。少しでも皆様の信仰の手助けにでもなれば幸いです。また私も皆さんと一緒に勉強して参りたいと思いますのでご質問があればどんどんお寄せ下さい。
- 来年はご本山の開創700年です。富山寺院合同で檀参を組んでお参りする予定です(6月22日前後で1泊か2泊)、皆さん多くの参加を希望します。詳細は来年1月までご報告できると思います。